

序

循環器救急の進歩はCCUとともにある。CCU (Coronary Care Unit) の創設は、1962年にDayによって米国KansasのBethany病院に創られたものが最初といわれ、ほぼ同時にPhiladelphiaのPresbyterian病院やカナダのToronto総合病院でも開設された。これは急性心筋梗塞患者を特殊な設備と専門の医療スタッフを擁する病室に一括収容し、24時間絶え間なく監視することによって心室細動による死亡を減少させることを目的としていた。これがCCUの始まりである。

その後1977年、Gruentzigらが開発したPTCAの普及、1979年Rentropらによって導入された血栓溶解療法、1991年にはtPAの登場を迎え、ステントの時代に移り、さらにはオフポンプCABGの普及も相まって、CCUでの急性心筋梗塞の死亡率は著しく低下した。

その30年をこえる歴史のなかで、CCUはCoronary Care UnitからCardiac Care UnitあるいはCirculatory Care Unitとして姿を変え、より多くの循環器救急患者を収容しなくてはならなくなった。病気自体も多様化し、多くの集学的 (Multidisciplinary) 知識が要求される。

わが国には急性冠症候群の診療に関するガイドライン (2007年改訂版) があり、2008年末に新たに“急性心筋梗塞 (ST上昇型) の診療に関するガイドライン”が日本循環器学会のホームページに掲載された。さらにその他にも20を超える種々のガイドラインが存在するため、個々のガイドラインを集約して理解するのは容易ではない。

そこで、すぐ循環器疾患の救急の現場で役に立つよう、どのようにCCUに収容し、素早く鑑別診断して確実な治療体制を築くための総合的ガイドラインに薬剤の処方例も掲載したポケットブックとして本書を企画した。循環器救急疾患の診療ですぐに役立つ内容を1冊に凝縮し、CCUに勤務する医師だけでなく、すべての循環器内科医に求められる診療・治療スキルをまとめたつもりである。特に多くの研修医、専修医、循環器専門医を目指す若手医師の道しるべとなれば幸いである。

2009年 8 月

田中啓治